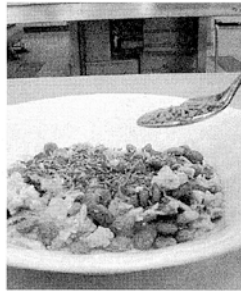


アース技研・帯畜大など産学官連携



餌に混ぜやすいようふりかけ状の製品に仕上げる

飼料メーカーのアース技研(音更町)や帯畜大など十勝地域の産学官は共同で、太りすぎの犬などペット向けサプリメント(栄養補助食品)を開発した。でんぷん抽出後のジャガイモ溶液の成分に中性脂肪低下などの作用があることを確認。同成分を活用し、来年度中にも、餌に混ぜるタイプの製品を発売する。十勝は国内最大のジャガイモ産地。成長するペット市場を狙い、資源の有効活用にもつなげる。

ジャガ成分で 愛犬用サプリ

中性脂肪低下など効果

飼料メーカーのコースの約四割を占める産地。毛食品北海道工場(芽室町)と道立十勝圏地域食品加工技術センター(帯広市)も参加した。

主な成分はアミノ酸が複数含まれた「ポテトペプチド」。でんぷん抽出後の溶液に酵素を加えてたんばく質を切断し、カールシウムなど不要成分をろ過。乾燥させた上で脱脂した米ぬかなどと混ぜ顆粒(かりゆち)状のサプリメントにする。

餌に混ぜマウスに四週間投与したところ、通常の餌に比べ中性脂肪と悪玉コレステロールを減らす作用などを確認した。これらが多すぎると動脈硬化などの原因となる。マウスと同様の効果が肥満のペットでも期待できるとみている。今後、味を調節し、犬の嗜好(しこう)テストなどを経て製品化する。

十勝はジャガイモを年間約百万トンを産し、道内

の約四割を占める産地。でんぷん抽出後の溶液は年間五千トンを後発するが、現状は飼料に使われる程度。溶液には一〜二%たんばく質が含まれるが、これまで注目されていなかった。

豊富な食生活や運動不足で、太り過ぎの犬や猫が増え、健康を気遣う飼い主向けにダイエット効果をもたらしたペットフードなどが相次ぎ商品化されている。国内で飼われる犬や猫は三千万匹以上に達しており、需要は大きいとみている。

発を経て五年以内をメドに人が食べる機能性食品としての販売も計画して、数億円の販売を目指す。

摂取試験などの研究開発